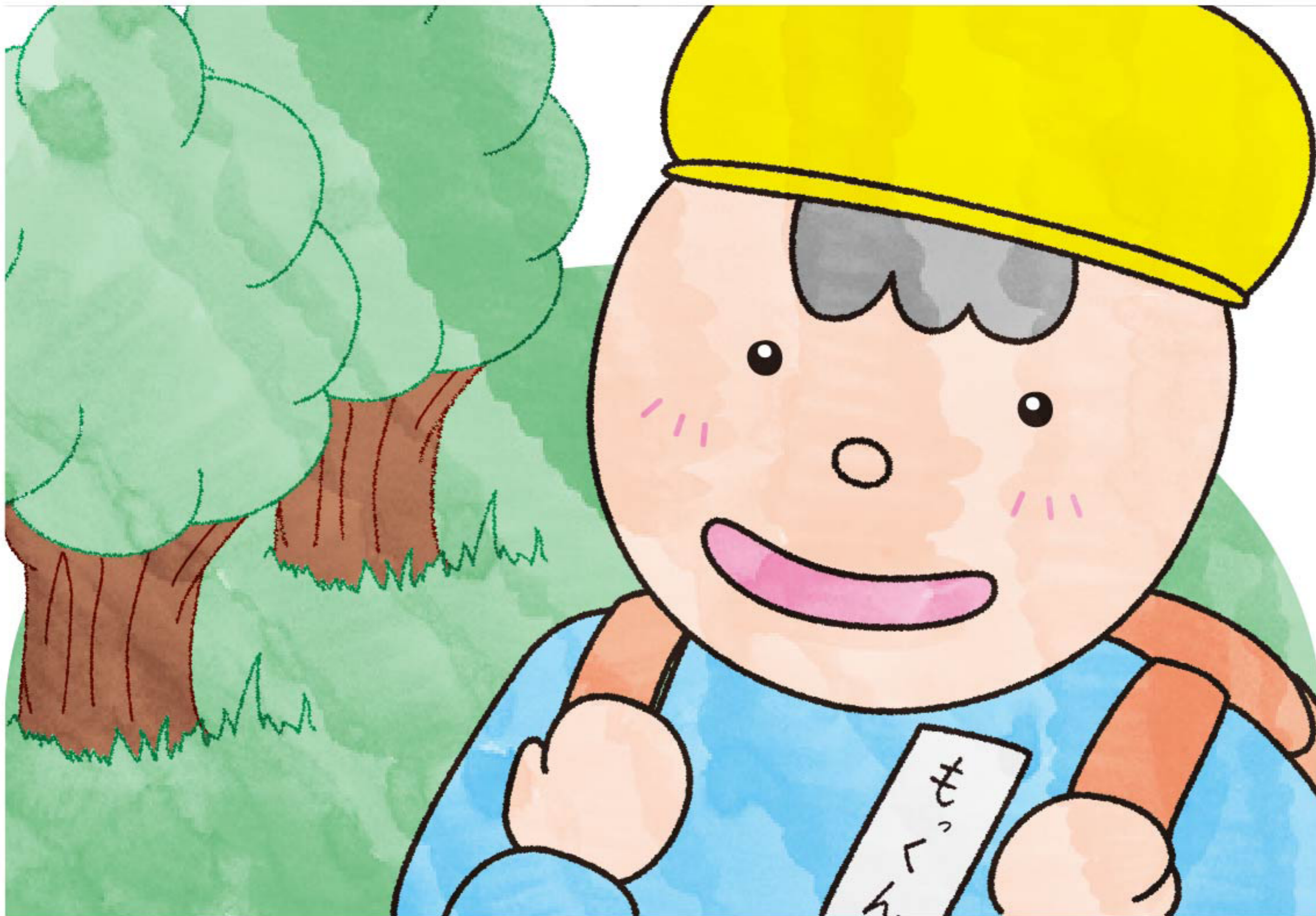




もっくんとせんじん



ある夏休み

「いい天気だなー。

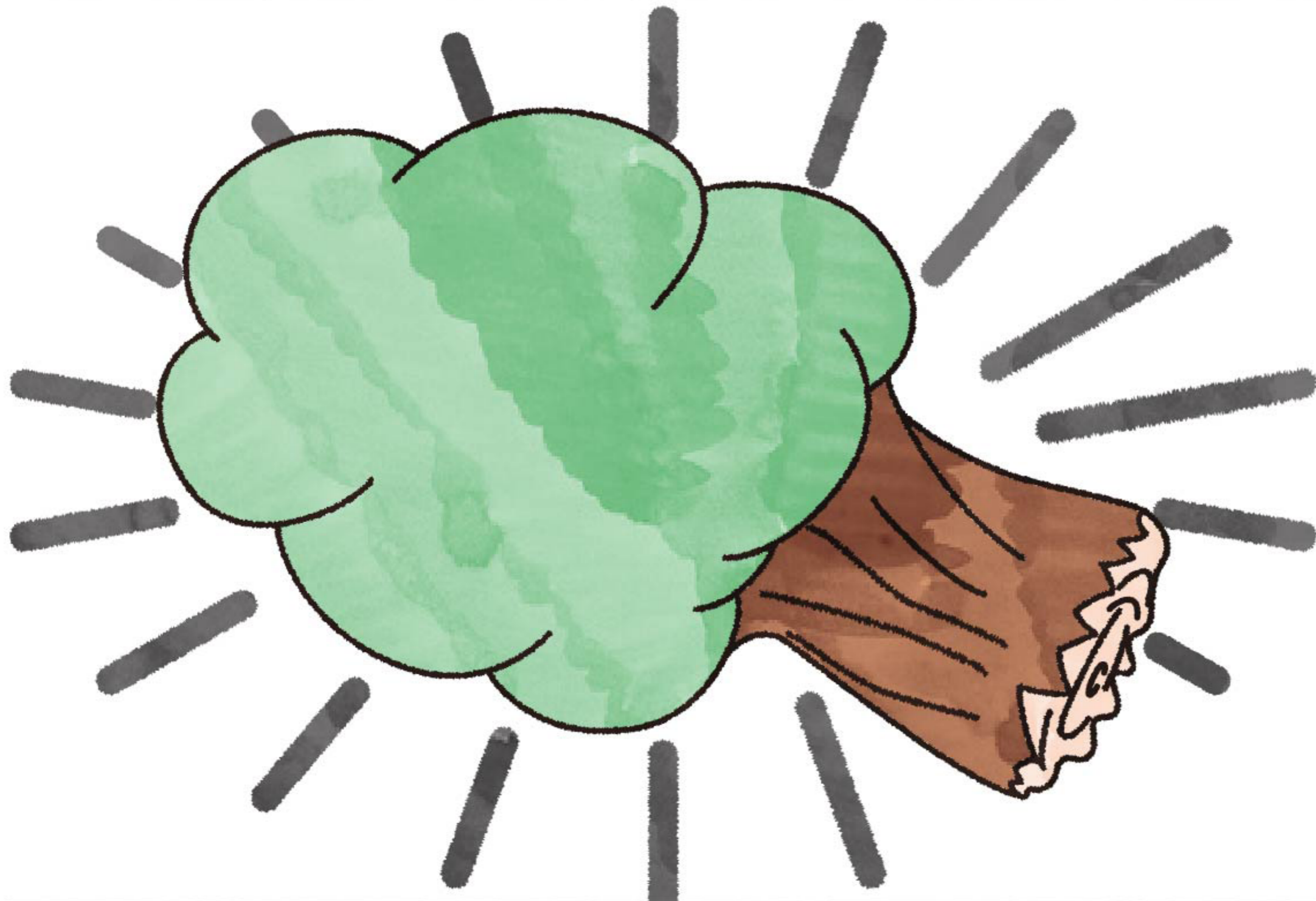
よし、こんな気持ちのいい日には
遠足に行こう」

もっ君は、山に遠足に行きました。

すると・・・

”ジャーン ジャジャーン”

「なんの音だろう？」とまわりを
見わたしてみると・・・



”ドカーン”

大きな木が倒れているでは
ありませんか。

あわてて、その先を見ると



そこには、木を切っている
青木さんがいました。
「なんで木を切っ
ているのだろう？」
もっ君は心の中で思っていると、



「やめろー！」
と叫んでいました。



「ちょ、ちょっと！木を切って…。
それって自然破壊じゃないの？
森は大切にしなきゃ
いけないんだぞ」
もっ君は青木さんに怒ります。



”もくもくもくもく”
怒っていると、後ろに仙人が
現れました。
仙人は
「何を怒っているんじゃ？」
ともっ君に聞きました。



もっ君は、

- ・ 木を切るのは自然破壊なんだ
- ・ 森がかawaiiそう

などと仙人にうったえます。

仙人は

「分かったらんのう」

ともっ君に言います。



「だって……あれを見てよ！」
もっ君は倒れた木を
仙人に見せます。



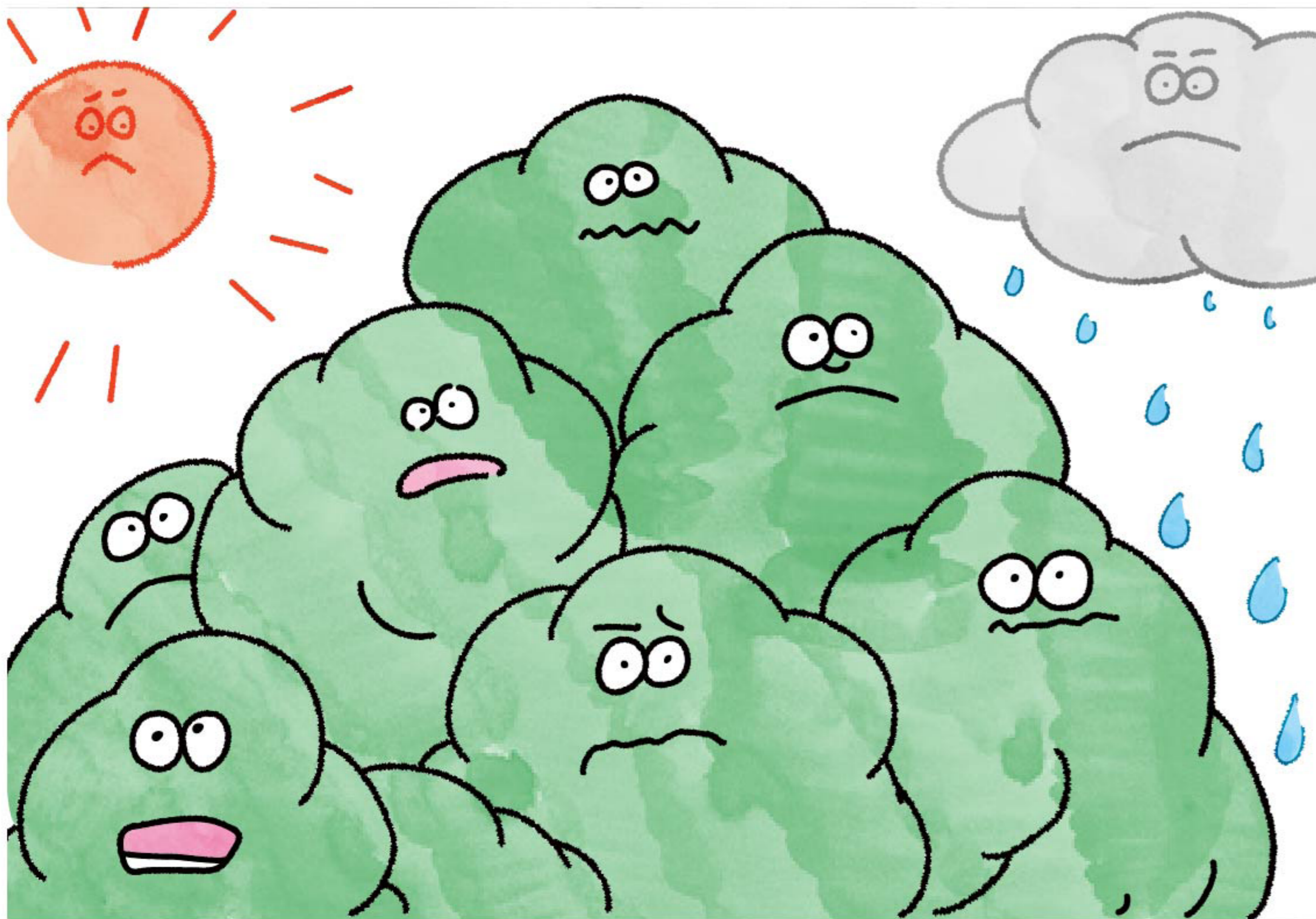
「あれは”かんばつ”というんじゃ」

「え？か・ん・ば・つ？

なにそれ？？？」

「どうして木を切るか、

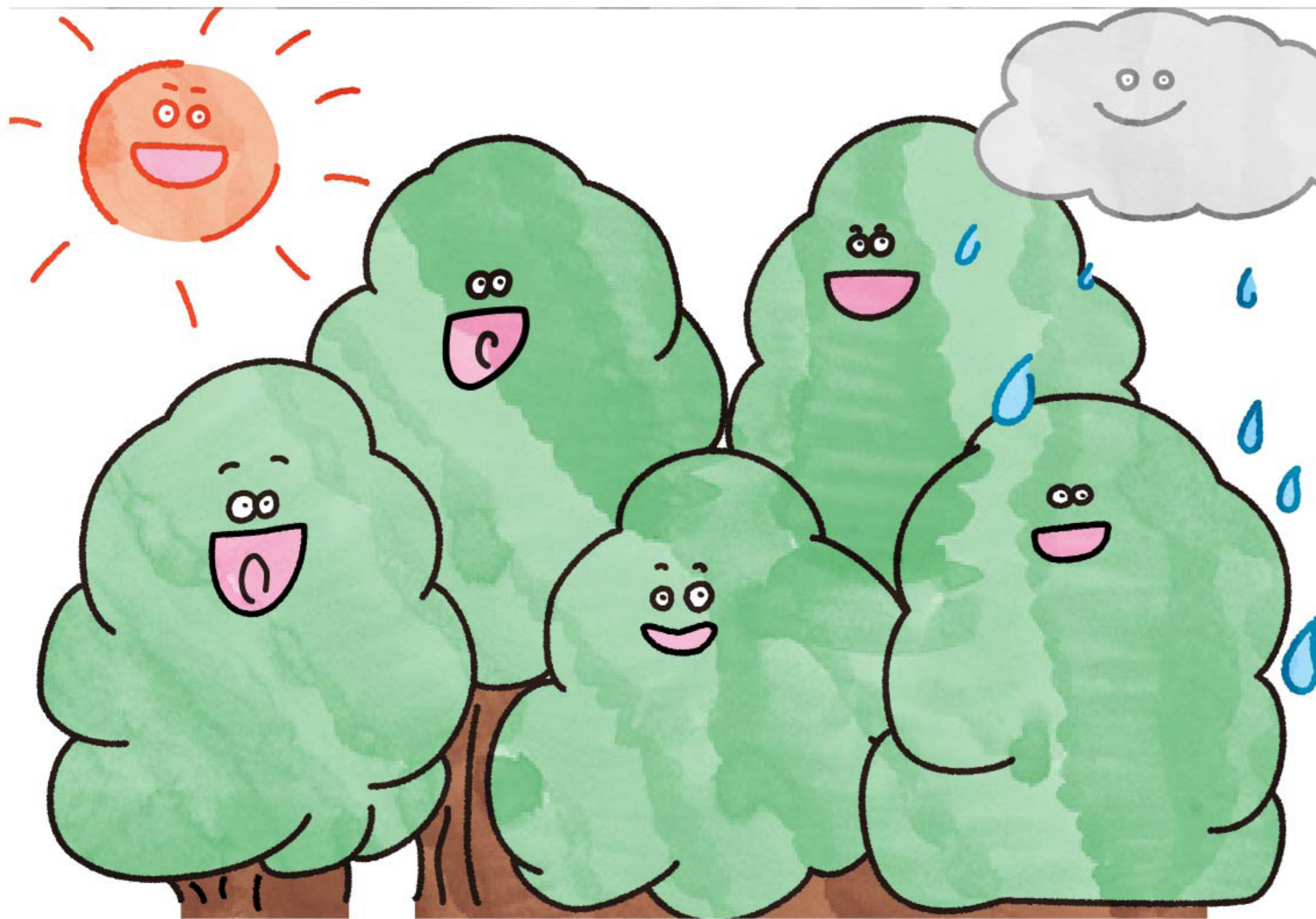
説明しようかの～」



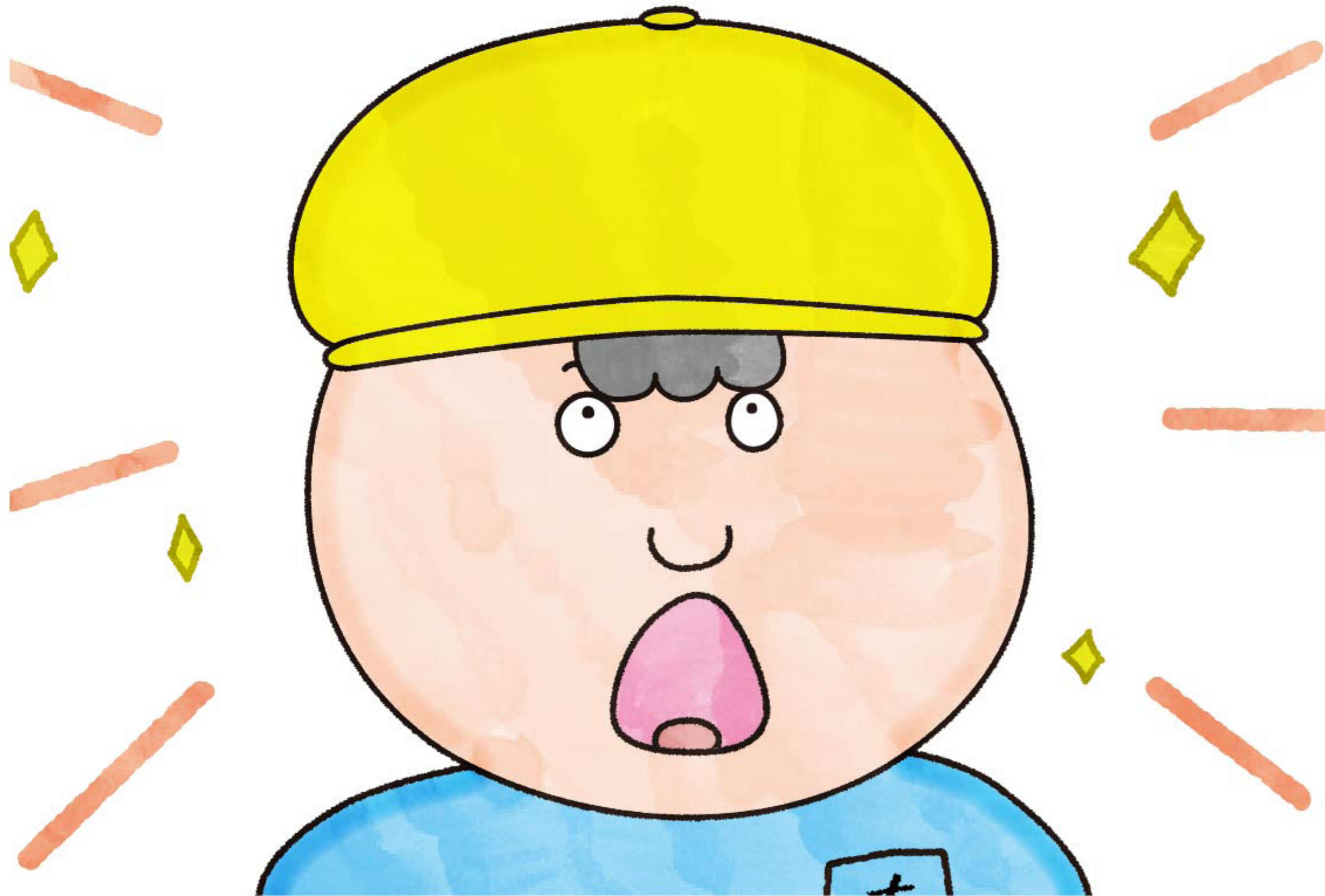
かんばつ前は
こんな状態なんじゃな。
木がぎゅうぎゅうで、太陽の光が
全部の木に当たらない、
雨が降っても水が根っこまで
届かないんじゃ。
太陽の光と水が少ないと、
栄養をとれなくて、
木が大きくなれないんじゃな。



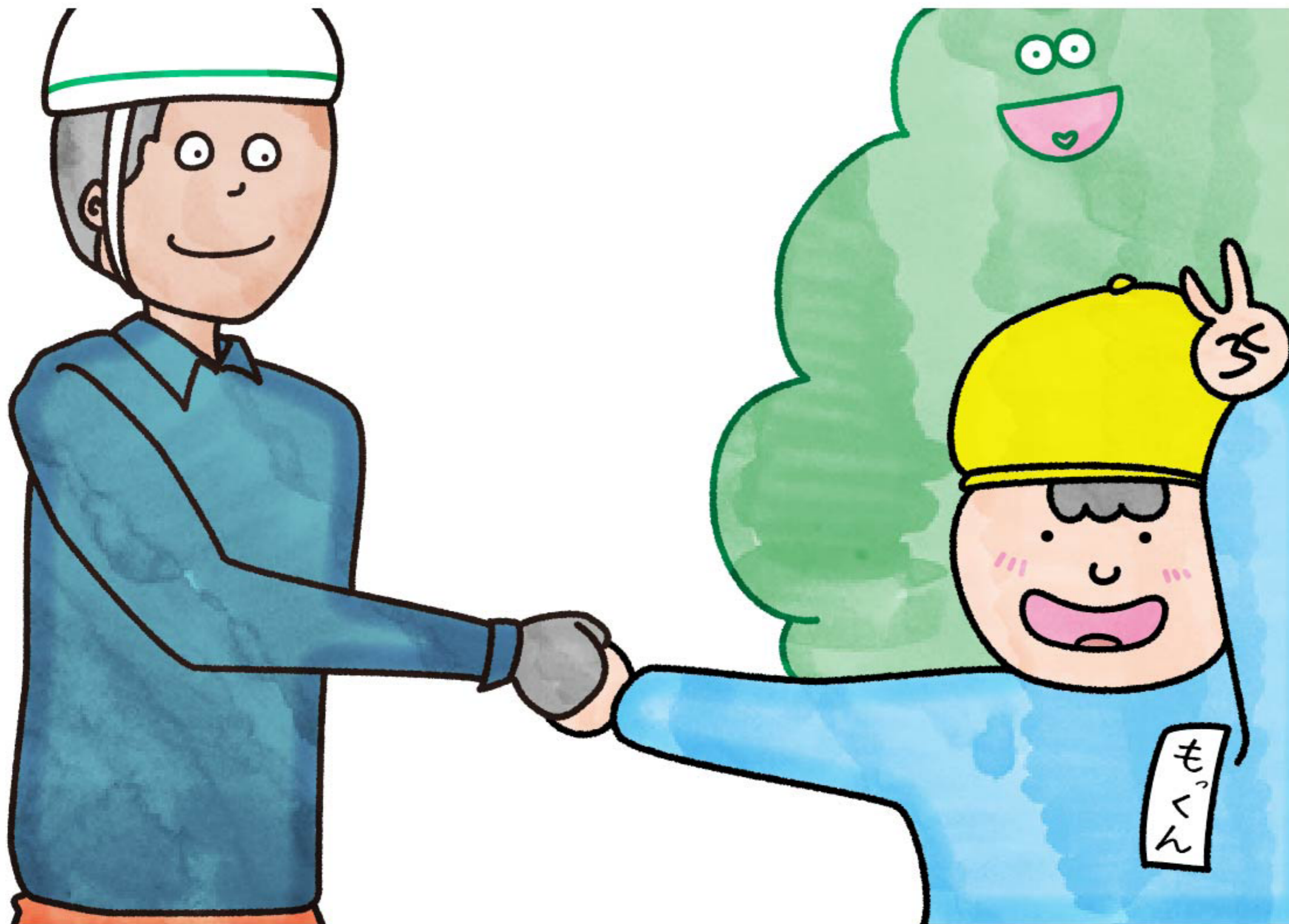
そこで、成長をよくするために、
これから大きく育つ真っすぐな
良い木は残して、
枯れている木や、曲がった木、
良い木の近くにある木などを
切っていくんじゃ。
これを”かんばつ”と
言うんじゃよ。
そして、切った木を
”かんばつざい”と言うんじゃな。



”かんばつ”をすると、
木と木の間に隙間ができて
太陽の光がいっぱい差し込んで、
木が大きく強くなるんじゃ。
木が強くなると、
風や雨に強い森にもなるし、
小さな植物や木の実が増えて、
森の動物が住みやすくなるんじゃよ。
森を育てるために、”かんばつ”
はとても大切なんじゃな。



「そうなんだ！
木を切ることは自然破壊って
思ってたけど、
森を大事にしていたんだね」
”かんばつ”が森を守っていた
ことを知ったもっ君は



「ぼく、勘違いしてたみたい
なんだ。いきなり怒ってしまって
ごめんなさい。これからも森を
守って行ってね」
青木さんと握手して
仲直りしました。



おしまい